

再評価個表

事業名	農道整備事業 (農山漁村地域整備交付金)	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	やわたはまちゅうおう 4 期 八幡浜中央4期地区	事業箇所	ごたんだ なかつがわ 八幡浜市五反田、中津川
事業主旨	本事業は、八幡浜市中央に位置する国道 197 号（川之内）と県道八幡浜宇和線（中津川）を結ぶ延長 7.4km の基幹農道であり、地域農業の振興と併せ農村地域の生活環境の改善を図る。		
再評価の実施理由	「事業採択後 10 年が経過して継続中」交付金事業		

1. 地域の概要

<p>八幡浜市は、愛媛県の南西部、佐田岬半島の付け根部に位置し、海岸線からすぐ傾斜地に至る地形が多い。このような地形条件や温暖で日照に恵まれた気候と水はけの良い土壌を生かした柑橘栽培を主体とする農業が営まれている。柑橘農業は愛媛県南予地域の主要産業であり、高品質柑橘産地として全国的にも知られる「日の丸」、「真穴」、「川上」等のブランド産地を形成しているほか、近年では「甘平」や「せとか」などが栽培されており、柑橘栽培の先進地として高い評価を受けている。</p> <p>当地域は、温州みかん等の柑橘と八幡浜市特産の渋柿（富士柿）の優良果樹生産団地であるが、谷々に縦に設置された狭小で急勾配な農・市道が唯一の流通経路であり、農産物の集出荷等に多大な労力を費やしている。</p>

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 19 年	完成予定	平成 32 年
用地着手	平成 20 年	工事着手	平成 20 年
全体事業費	2,237 百万円(うち用地費：90 百万円)		
(1) 事業概要	<p> ≪農道整備≫ 延長 2,350 m (全体 7,400 m) 農道工 延長 2,350 m (全幅員 7.0 m) </p> <p>八幡浜中央農道は、全延長 7,400 m を 4 区間（地区）に分割して（1期：3,100 m、2期：440 m、3期：1,510 m、4期：2,350 m）事業を実施している。</p>		
(2) 事業経緯	<p>平成 19 年度 事業採択</p> <p>平成 20 年度 用地買収着手、工事着手</p> <p>平成 24 年度 264 m 供用開始</p>		

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1) 事業の必要性(整備効果)

① 運搬経費の節減

積極的な営農が展開されているなか、生産物の輸送車両は樹園地内を縫うように造成された幅員2.0～2.5m程度の市道・農道を通行している。車両の離合や大型車の通行は困難で、未舗装やカーブが多いことから危険性も高い。農産物の集出荷でも国道、県道までの経路は同様であるとともに、八幡浜市街地内の道路事情の悪さもあり、交通経路の効率化が図れない状況で、集落間を結びながら交通混雑区間を避けられる基幹農道の整備が急務である。

【整備効果】

○営農に係る走行経費の節減 ○一般交通等の経費節減

② 災害時通行確保

八幡浜市津波ハザードマップによると、国道197号、378号とも浸水想定区域内となっており、災害時緊急輸送路の代替路線が必要である。

本農道は、全区間が標高約100m以上のエリアを通過していることから、近い将来発生が予想される南海トラフ地震による津波の影響を受けない。

完成すれば、主要国・県道へ接続する緊急輸送路・避難路等の役割も担うこととなる。

(2) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・TPP大筋合意により、海外農産物との価格競争激化等が懸念される中、産地の中核を担い手や営農意欲の高い農家を支援し、産地基盤をより一層強化する必要がある。

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

<p>(うち用地費) H27末投資事業費</p>	<p>(57百万円) [進捗率：96.7%](事業費換算) 1,282百万円 [進捗率：57.3%](事業費換算)</p>
<p>(1)事業の進捗状況</p>	<p>1期地区：延長3,100m 平成6年度に採択され、平成21年度に工事が完了し、八幡浜市への譲渡手続きを終え、供用を開始している。</p> <p>2期地区：延長440m 平成11年度に採択され、平成18年度に工事が完了し、八幡浜市への譲渡手続きを終え、供用を開始している。</p> <p>3期地区：延長1,510m 平成13年度に採択され、平成19年度に工事が完了し、八幡浜市への譲渡手続きを終え、供用を開始している。</p> <p>4期地区：延長2,350m 平成19年度に採択され、平成20年度に工事に着手し、620mの工事が完了している。そのうち264m区間については、八幡浜市への管理委託手続きを終え供用を開始している。 (平成27年度末進捗率57%)</p>
<p>(2)これまでの整備効果</p>	<p>すでに、5,300m余の区間において供用を開始しており、各集落で営農に利用され効果を発揮している。</p> <p>また、起点部は国道197号線と接続されており、大型車両の進入が可能になったほか、緊急車両の走行が容易になり、各集落の生活環境向上に寄与している。</p>
<p>(3)今後の事業進捗の見込み</p>	<p>平成25年度から八幡浜市が関連事業である市道双岩南久米線の改良事業に着手し、市道工事実施に併せて本農道も平成28年度から終点側からの工事を行う予定である。</p> <p>また平成28年度中にはこれまでの工事中区間が暫定接続することから、残る1,030m区間において、大型機械を導入した2方向から工事を進める予定である。</p>

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

（1）費用便益比

C：総費用＝10,986百万円

- ・事業費 9,330百万円
- ・その他 1,656百万円

B：総便益＝11,771百万円

- ・営農に係る走行経費節減便益 7,416百万円
- ・一般交通経費節減便益 4,405百万円
- ・維持管理費節減便益 △50百万円

$$B/C = 11,771 / 10,986 = 1.07$$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

路体工事に必要となる盛土材について、他の公共工事と連携を図りながら、建設発生土を有効に活用しコスト縮減を図った。

7. その他

愛媛県農山漁村地域整備計画（28年3月修正）での位置付け

- ・えひめの食料供給力強化と担い手育成・確保プラン（その2）において当事業が、「愛媛県の多くの農地が基盤整備の遅れにより生産性が低く、食糧供給力の強化や担い手の育成・確保に大きな支障となっていることから、基盤整備により生産性が向上した農地の確保、食料供給力の強化や担い手の育成・確保を図るための事業」として位置付けられている。

8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。

本農道は、地域農業振興のみならず、集落間の往来が容易になるなど地域の生活環境の向上も図れることから事業継続としたい。

また、これまでは地すべり対策工事を施工するため進捗が思うように図れなかったが、あと僅かで地すべり指定区域を抜けることから、同対策工事が減少すること等により平成32年度には完成見込みである。